

前立腺肥大症

前立腺とは

前立腺は男性特有の臓器で、膀胱に接して存在し、栗の実を逆さまにしたような形、大きさをしています。もともとは精液の一部を作る働きをしていますが、加齢とともに良性の腺腫ができて肥大したものが前立腺肥大症（以下「肥大症」といわれる病気です。

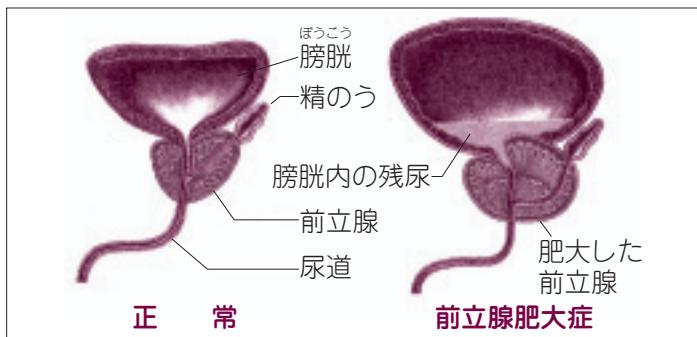
肥大症の症状

前立腺の中を尿道が通り抜けている関係で、前立腺の病気は多くの場合、排尿に伴う症状として現れてきます。肥大症では代表的な症状が2つあります。

1 つめは膀胱や尿道が刺激されて起きるもので、トイレが近くなる頻尿、尿意を催したらがまんができなくなる尿意切迫感などがあります。

2 つめは大きくなった腺腫が尿道を圧迫することによる排尿困難です。尿線の細小化や放尿力の減退、排

尿開始から終了までに時間がかかるなどの症状が代表的です。



正常

前立腺肥大症

治療法

治療では、まず症状に応じた薬物療法を行います。近年新しい薬の開発により、肥大症の多くは薬の服用で症状の改善が得られるようになってきました。

ただ、排尿困難が高度で、

膀胱に貯留した尿を全部排尿できなくなり残尿が増えた場合には、前立腺を切除する手術療法が必要になります。

肥大症と前立腺がんとの鑑別

良性の肥大症と悪性の前立腺がんは全く別なものです。同時に存在することもあります。やっかいなのは両方とも症状が同じなので、自覚症状から鑑別することは困難です。

そこで大きな武器となるのがPSA（前立腺特異抗原）と呼ばれる腫瘍マーカーです。これは前立腺で特異的に作られ血液中で測定される物質です。がんになると基準値を超えて上昇することが多く、診断の補助になります。



佐伯地区医師会廿日市支部
小林 勲勇

なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎01610